
Angel Strike!

深月文乃

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Angel Strike!

【Nコード】

N3542Y

【作者名】

深月文乃

【あらすじ】

普通の人間として、至って普通の生活を営んでいた高校生・ライナ＝エドワード。
ある日彼は、何者かに拉致され
気付いたらゲームの中に居た!?

プロローグ

ライナ・エドワードは、至って普通の人間だった。

普通の日常。

普通の生活。

何処にでもいるような人間・ライナは

しかし或る日、何者かに気絶させられ、縛られ、そして
拉致された。

．．．．．
．．．．．
．．．．．

まだボーっとした頭を覚醒させ、ライナは目を覚ました。

「ここは．．．．．？」

目が覚めると、知らない部屋だった。

「．．．．．どうなってんだ？」

目が覚めると、知らない天井を見ていた。

「．．．．．確か、登校中だったはずだよな？」

目が覚めると．．．．．見知らぬ女が傍に居た。

「ってか、あんたは誰だ！？何の目的で——むぐっ!？」

「静かに。」

抗議する俺の声は、しかしその「何者か」によって遮られた。

仰向けで、しかも手足を縛られている俺の口は、いとも簡単に塞が
れた。

「．．．．．」

すつ と、俺が暴れないのを確認すると

その女は手を離れた。

そして、名乗る。全くの無表情のまま。

「私の名前は、アル。 アル・アーヴァイン。」

「アル……」

そして、

「あなたの、力が必要です。 かつて、世界を救った英雄 ライナ。」
なんてことを言う。

「えい……ゆう？」

「はい。 あなたは間違いなく、その張本人だと。」

なんてことを言う。

それに俺は、こう答える。

「あの、さあ？」

「？」

「多分、つて言うか絶対にあんたは勘違いしてるぞ。」

女……アルは、微かに動揺した顔を見せたが、こう返す。

「何を、でしょうか？あなたは確かに……」 「確かに、俺

の名はライナだが」

「でしたら」「だ・が！」

「……」

アルは、「何を言いたいのかわからない」とでも言いたげな顔でこちらを見る。

それに、ライナは言っただけ。

「俺は！ただの高校生で！！あんたの言うような英雄なんかじゃ、これっぽっちも無いんだよ！！！」

と、ライナは言っただけ。

アルは驚愕に顔を歪めたが、だがこれもやはり一瞬のことであつた。

「あなたが、ただの人間である事は存じておりますよ？」

「だったら……」「ですがそれは、あくまでそれは、『現実世界での話』でしょう？」

「？」

わけが、わからなかった。

（現実世界では？何を言ってるんだ、この女は？）

「ってか、いきなり拉致って縛り上げておいて何を言い出すんだあんたは！？」

取り敢えずライナは今のこの、あまりに理不尽な状況について文句を言ってみた。

あまりに展開が謎過ぎるので、善良な一般人であるライナにはそのくらいしかする事が思い付かなかった。

それにアルは、こう答えた。

「ここまでお連れしたのは、二人きりで話したかったから。縛ったのは、暴れられると嫌だから、ですが？」

至極淡々と、こう答えた。

「・・・・・・・・・・・・・・・・。」

なんだろう。一発くらいブン殴ってもいいんだろうか、この女。とか考えたが、

残念ながら縛られているので実行不可。

「ああ、もう！」

あまりに理不尽な状況に、もう相手にまかせるしか選択肢は無くなつたようである。

「・・・・・・・・現実世界では、ってのはどういう意味だ？」

と、取り敢えず一番の疑問について聞いてみる。

それにアルは、

「ですから、言葉どおりですが・・・・・・・・。」

なんてことを言う。

「だからそれが意味分かんないんだって言ってんだよ！！なにか？あんたは現実世界じゃない所から来た、とでも言うつもりか！？」

自分で言っておいてなんて馬鹿馬鹿しい、と思う問いに、

「その通り、ですが」

アルは、そんなことをいう。

「は………?」

驚いた口からは、思わず素っ頓狂な声が漏れる。

「ですから、私が本来居るべき世界は、あなたのいる現実世界ではありません。」

と、そのとき不意にライナの頭に一つの答えが浮かぶ。

あまりに馬鹿らしいので、考えの候補にも上らなかった答え。

（だが、この女の口ぶりからして嘘をついているようには見えないし……）

「あの、さあ………。」

そんな突拍子もなさ過ぎて口にするのも恥ずかしくなるような、質問をぶつけてみる。

「もしかして、ゲームの中から来た………とか?」

………言ってしまった。とうとう。

これで自分は、「中二病ワロタwww」とか後ろ指刺されても文句はいえないだろう。

それだけ馬鹿馬鹿しい事を、口にしてしまったのだ。

さあ、この女もさぞかし呆れた目で俺を………

「その通りですよ?」

見なかった。

そして、先ほどの無表情とは違う、明らかに嬉しそうな顔でこんな事を言う。

「あなたが1年前に魔王を倒したオンラインゲーム、『Angel Strike!』その世界、オルタナ。」

「は………?」

「私はその世界の中の国の一つ ユクモ村の、村人Bでした。」

こうして出会った、攫われの元・英雄ライナと、村人B。
そして……

「今、再び魔王に襲われたオルタナを救えるのは、貴方しかいないんです。」

「かつて討伐不可能とされた魔王を、只ひとりで狩った英雄、ライナ。」

「貴方が、今の魔王を直接倒すしか、オルタナを救う方法はないんです。」

第1章”Angel Strike!”（前書き）

——俺がこのゲームの存在を知り、ただ一人のプレイヤーとして口グインするようになった、2036年の8月——

それは、サービス開始からおよそ半年後の馬鹿みたいに蒸し暑い季節のことだった。

第1章”Angel Strike!”

MMORPG・・・

それは、ネット上で多くのプレイヤー達が同時に同じゲーム世界を冒険できる

いわゆる「多人数参加型オンラインゲーム」

そのRPG版である。

電子機器会社である「アーガマ」から提供された、

「Angel Strike！」略して「AS」というタイトルも、そのMMORPGのひとつとして

サービス開始直後は結構な人気を博していた。

超大型サーバー『アトス』を搭載したその最新鋭のゲームは、まさに革命と呼んでいいほどのグラフィック

及び操作性を実現させ、自分の手足のようにキャラクターを動かせるとあって、

多くのゲーマーを魅了した。

――が。

サービス開始から約2週間後。

突如、当時最高ランクに位置していたプレイヤーが魔物に打ち倒され、

レベル及びアイテム等を初期設定に引き戻される――通常、魔物に倒された場合は多少のデスペナルティが発生するものの、

普通はステータスの微量な減少及びアイテムのランダムドロップ等、あまり厳しいものではないのだが――という事件が発生。

この異変を、そのプレイヤーはすぐさまGMに不具合として訴えたが、

こともあるうちに、GM側からの回答は「それが仕様です。」というものだった。

そうして最初の犠牲者が出た直後から、この「Angel Strike!」というゲームの本質がさらけ出されていく。

まず、初期設定に戻されたプレイヤーを襲ったのは、通常のモンスターとは異なるということ。

——これはまあ、デスペナルティが重過ぎるという点から察することとは出来るが。——

これはサービス開始時には明かされなかったシークレットの仕様である

『魔王の襲撃』という必起イベントのせいである。

これはプレイ時間が150時間に達したプレイヤーに起こる、回避不可の強制イベントとなっているのだが

内容がとにかくエグい。

|||||

・プレイ時間150時間を越えてフィールドを探索していると、『魔王』とエンカウントする。

・戦闘では、『逃げる』という選択肢は使えない。

・魔王に倒されると、デスペナとしてレベル等のステータス及びアイテム情報が初期化される。

・魔王のレベルは80である。

|||||

まあ、『レベル』というのは知つてのとおり、

そのキャラクターの『強さ』を表すパラメータなのだが

80というのは、明らかにプレイヤーの手には負えない数値である。ゲーム廃人と化して、レベルがカンストしているような異常なプレイヤーキャラならともかくとして、

しかも150時間という制約が設けられている以上、

絶対にレベルがそこまで上がるという事にはならない。

実際、最初に殺されたプレイヤーはその時レベル18で、魔王には

出会って3秒で殺されていた。

——とまあ、明らかにゲームバランスが崩壊してるだろオイ っていう批判が絶えず

しかしどういいうわけか仕様が改善されるでもなく

次第にこのゲーム”AS”は、ユーザーの間で「史上まれに見るクソゲー」として評判となり、

やがて次々とユーザー数は減少していき、

結局誰も魔王倒した先の展開を拝むことなく

ついにログインプレーヤーが一人もいなくなってしまったのが、サービス開始からおよそ半年後

——俺がこのゲームの存在を知り、ただ一人のプレイヤーとしてログインするようになった、2036年の8月——

それは、サービス開始からおよそ半年後の
馬鹿みたいに蒸し暑い季節のことだった。

・
・
・
・
・
・
・

「んで、これは一体どういう状況なんですか？アルさん。」
「……俺は、ゲームの中（？）にある何か牢屋的な場所で、
縛られた状態でいた。」

取り敢えず状況が全く読めないので、目の前に居る少女に事情の説明を請う。

「いえ、暴れられると困るので取り敢えず縛って地下牢でお話することにしたのですが」

「俺はモンスターか何かか？」

冷静なツツコみをお見舞いしてやる。すると

「嫌ですね。あなたが暴れたらむしろモンスターよりタチ悪いですよ？」

さらに冷ややかな、いや、むしろ嗜虐的な笑みを湛えて少女は返してくる。

「・・・・・・・・・・・・・・・・。」

「話を続けて構いませんか？」

「・・・・・・・・はい。」

最早口で何を言っても勝てそうになさそうだったので、もう相手に任せることにした。

そしてアルは口を開き、ここに至る経緯を話した。

第2章”英雄、再び”（前書き）

ありのままに、今起こったことを話そう。

- ・眠らされて拉致されて気づいたら地下牢だった。
- ・しかも、ゲームの中らしい。
- ・魔王を倒せ と言われた。

どうなってるんだよ一体……

第2章 ”英雄、再び”

・ ・ ・ ・ ・

・ ・ ・ ・ ・

・ ・ ・

「で、そういうわけでこのオルタナにお連れしたわけです。」

一応のざっくりとした事情を話し終え、目の前の女―アル―は満足げに胸を張った。

（・・・いや、何そのドヤ顔

まあ、はつきり言っただけがわからない。

ここがゲームの中の世界だと言われている時点でもう俺の思考回路はショート寸前なのだが・・・。

（魔王・・・か。

再び甦り、世界を蹂躪し始めた新たな”魔王”。

その魔王から世界を救うため、かつて先代の魔王を打ち倒した俺に白羽の矢が立ったわけで。

それで、俺は再びこの世界に連れてこられた。

以上が、先ほどまでに繰り広げられた

アルさんのとても分かりやすい解説（自称）の全容である。

（いや、そもそもゲームの中に”連れて”来るってどういう・・・

と、俺がずっと腕を組んで考えをまとめようとしていると・・・

・ 「あの、ライナさん。聞いてます？」

隣のアルが不機嫌そうに顔を傾げて言ってくる。

まあ、事情の説明を終えてからは、やれ今流行りのファッションだとかおすすめのモンスターグルメだとかくだらない話をし出したのでずつとシカトしてるのだが・・・

(・・・この体、感覚とかは偽者のようには思えない。

「あの、ライナさん？」

・・・

・

(しかし、なんだろうな？さつきからずっと、こう、肩が凝ってるような？感じがする。

「ライナさんつつっ！！！！！！！！」

ぐわっ！

「うをつ！？」

胸倉をつかまれて叫ばれるまで、ずっとアルのことを無視していた。

「私の話、ちゃんと聞いてました？」

笑顔。凍りついた空気を纏った笑顔で、アルはそう尋ねてくる。

コクコクコクコクコクッ！

俺はただ無言で何度も頷いた。

・・・

・・・

・・・

さて、

この物語を始める前に、話しておかねばならないことがあるな。

半年前。俺が魔王を

初代魔王を倒したときの話だ。

.....

ある理由から、魔王を倒すほどの実力を得た俺はプレイ時間150時間を越えたとき、

街で補給をすませると、すぐさま魔王と会えるフィールド上へ向かった。

そして、まあ、勝った。

そうして、伝説的とも言えるだろう、だが誰にも知られることのない記録を打ち立てた俺は、戦闘終了後の経験値処理とアイテムドロップ処理がおわると、すぐにメインメニューを開きログアウトボタンを押した。

その後、オルタナの地を踏むプレイヤーは誰も居なかった。

なので、魔王が倒された、その後。

その後の世界の行く末を知る者は、文字通り誰も居ない。

ただ一人それを見る権利を手にした青年は、

その権利をゲームで得た莫大な経験値やアイテムごと投げ捨てた。そして俺は、二度とこのゲームを起動することは無かったのだが、

どういうわけか、また、ここにいる。

（まったく.....。何の因果なんだか。

思わずため息が出る。

この世界で目覚めてから何度目のため息だろうか。

体を拘束していた縄がアルによって解かれ、一応確認用に、とアル
が取り出した鏡をみて、俺は言葉を失い、次の瞬間に先ほどの叫び
声をあげた。

鏡に映っているのは、どうみても
どうみても、美しい女性の姿だった。

・・・・・・・・・・

そう、まるでCGのように整った顔立ちの美しい少女が、鏡には映
っていた・・・・・・・・。

英雄 ライナ・エドワード（♀）
オルタナの地 ユクモ村。
その地下牢にて、活動を再開。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3542y/>

Angel Strike!

2012年1月10日06時48分発行